株式会社ミライロ

2020年4月3日

【新型コロナウイルスの影響実態調査結果】

## 概要

目的：新型コロナウイルスの流行に伴い、障害者がどのようなことに困っているのかを把握するのと同時に、勤務形態の変化による課題を調査するため。

調査日：2020年3月5日（木）～ 3月9日（月）

対象者：ミライロ・リサーチのモニター会員及びミライロIDの登録者

回答者数：411名

調査手法：Webアンケート

## 回答者の障害種別は以下の通り。 ※選択式

肢体不自由：201人

視覚障害：65人

聴覚障害：42人

精神障害：29人

発達障害：11人

知的障害：8人

その他：21人

重複障害：34人

## ウイルスの流行に伴い、障害特性が理由で困った経験はありますか？　※自由記述式

【肢体不自由】

・車いすのハンドリムを必ず触るため、消毒してもすぐに汚くなっている気がする。

・車いすの利用者で健常者よりも低い位置にいるため、咳や会話の飛沫が降ってくることが、いつも以上に気になる。

・手が不自由なため、マスクが外れた際に、自力で着用することができない。

・さまざまなところで消毒液が用意されているが、車いすでは届かない高さに置かれていることが多い。

【視覚障害】

・日常生活では物を触って確認することが多いためこの時期特に心配である。

・店頭にマスクの在庫など紙が張り出されているようだが、確認ができない。

・前までは声を掛けたら手引きなどしてくれる人が多かったが、最近は警戒されているような感じがする。

・周りの人がマスクをしているかどうかわからず、「着けるべきか」の判断がしづらい。

・マスク越しの会話は、音が不鮮明で聞き取りづらい。

【聴覚障害】

・マスクをしていると会話ができない、外してほしいというと露骨に嫌な顔をされる。

・問い合わせ先が電話しかない場合に困る。メールとかFAXでの問い合わせ先があってほしい。

【精神障害】

 ・どの情報が正しく、そうでないのか、パニックになってしまう。

【知的障害】

・ウイルスが流行している、という概念がわからずマスクの着用を拒否される。（保護者の意見）

## 現在働いていますか？（正規雇用／非正規雇用 問わず） ※選択式

総計：はい257人／いいえ154人

肢体不自由：はい123人／いいえ78人

視覚障害：はい49人／いいえ16人

聴覚障害：はい32人／いいえ10人

精神障害：はい16人／いいえ13人

発達障害：はい7人／いいえ4人

知的障害：はい3人／いいえ5人

その他：はい13人／いいえ8人

重複障害：はい14人／いいえ20人

## 「在宅勤務」の制度を利用していますか？　※選択式

総計：制度があり、利用している59人／制度はあるが利用していない40人／制度がない154人

肢体不自由：制度があり、利用している40人／制度はあるが利用していない10人／制度がない71人

視覚障害：制度があり、利用している5人／制度はあるが利用していない13人／制度がない30人

聴覚障害：制度があり、利用している5人／制度はあるが利用していない8人／制度がない19人

精神障害：制度があり、利用している2人／制度はあるが利用していない4人／制度がない10人

発達障害：制度があり、利用している1人／制度はあるが利用していない0人／制度がない5人

知的障害：制度があり、利用している0人／制度はあるが利用していない0人／制度がない3人

その他：制度があり、利用している3人／制度はあるが利用していない4人／制度がない6人

重複障害：制度があり、利用している3人／制度はあるが利用していない1人／制度がない10人

## 「在宅勤務」に関して、障害特性が理由で困ること、または制度を利用しない理由がありますか？　※自由記述式

【肢体不自由】

・家では簡易的な車いすで生活しているため、長時間座ると体が痛くなる。オフィスでは外用車いすのため、体が痛くない。

・元々在宅ワークで働いているが、パソコン越しのコミュニケーションだと機能障害の理解をしてもらいづらく、できない仕事とできる仕事の区別を上司にしてもらうことが困難。

・就労時のヘルパー利用ができないため、本来ならトイレ休憩や昼食どころかテレワーク自体もままならない。今のところは両親の全面サポート。

【視覚障害】

・どうしても視覚に頼らざるを得ない資料が必要なときに、周囲のサポートを受けられない可能性があることが懸念事項。

・ハードディスクを持たないタイプのパソコンにスクリーンリーダー（※1）をインストールすることが難しいため、これまで利用環境を整えられずにいた。また、セキュリティの関係で、在宅勤務で使用するパソコンに点字ディスプレイが接続できないことを確認しているため、在宅勤務になると、作業のスピードが落ちたり、できない業務が発生したりする。セキュリティの確保と支援機器での利用の両立が難しい。

・会社ではデスクトップを使用しているが、在宅では視線を低くしなければいけないノートPCになってしまうため、首や腰が疲れる。画面も小さくなり、キーボードのブラインドタッチもしづらい。

【聴覚障害】

・電話応答ができないため緊急時のコミュニケーションが困難。

・電話会議が難しい。

【発達障害】

・コロナ対策により自宅勤務中ですが、平日の日中に1人で自宅に居ると集中がなかなかできず、思うように仕事が進まないことが悩み。また、朝起きることが通勤していた頃より難しくなり、寝坊することが増えてしまった。

※1　視覚障害者が使う、パソコン画面を読み上げるソフトウェアのこと

## 「時差出勤」の制度を利用していますか？　※選択式

総計：制度があり、利用している50人／制度はあるが利用していない69人／制度がない129人

肢体不自由：制度があり、利用している25人／制度はあるが利用していない34人／制度がない58人

視覚障害：制度があり、利用している9人／制度はあるが利用していない10人／制度がない29人

聴覚障害：制度があり、利用している4人／制度はあるが利用していない12人／制度がない15人

精神障害：制度があり、利用している4人／制度はあるが利用していない5人／制度がない7人

発達障害：制度があり、利用している2人／制度はあるが利用していない4人／制度がない0人

知的障害：制度があり、利用している0人／制度はあるが利用していない0人／制度がない3人

その他：制度があり、利用している4人／制度はあるが利用していない3人／制度がない6人

重複障害：制度があり、利用している4人／制度はあるが利用していない3人／制度がない7人

## 「時差出勤」に関して、障害特性が理由で困ること、または制度を利用しない理由がありますか？　※自由記述式

【肢体不自由】

・ノンステップのバスの時間が決められていないため、時間をずらせない。

・公共交通を利用して通勤しているため時差出勤することによってバスの時間に影響することが考えられる。

・時差出勤すれば朝は楽ですが、帰りが遅くなるのも身体が疲れる。

・自家用車で通勤しているため、許可が降りない。

・脳性マヒの影響で身体障害だけでなく、発達面もグレーだと診断を受けた。変化に弱さを持っているため、時差出勤を利用していない。また、同様の時刻に外出することによって私的な支援も受けられているため。

・福祉タクシー通勤のため必要ない。

・自家用車で通勤しているため、許可が降りない。

【聴覚障害】

・介護短時間勤務のため対象外にされている。

・利用しない理由として、車通勤しているため。

【精神障害】

・基礎疾患も持っているため、自主的に出社していない。そのため今のところ給料なし、補償もなし。医療費だけは毎月かかるため困っている。何か補償がほしい。

【その他】

・通院に影響が出るため。

・自家用車で通勤しているため。

## 「遠隔会議」の制度を利用していますか？　※選択式

総計：制度があり、利用している63人／制度はあるが利用していない30人／制度がない153人

肢体不自由：制度があり、利用している40人／制度はあるが利用していない12人／制度がない64人

視覚障害：制度があり、利用している7人／制度はあるが利用していない7人／制度がない33人

聴覚障害：制度があり、利用している6人／制度はあるが利用していない5人／制度がない20人

精神障害：制度があり、利用している3人／制度はあるが利用していない2人／制度がない11人

発達障害：制度があり、利用している2人／制度はあるが利用していない1人／制度がない3人

知的障害：制度があり、利用している0人／制度はあるが利用していない0人／制度がない3人

その他：制度があり、利用している3人／制度はあるが利用していない3人／制度がない7人

重複障害：制度があり、利用している2人／制度はあるが利用していない0人／制度がない12人

## 「時差出勤」に関して、障害特性が理由で困ること、または制度を利用しない理由がありますか？　※自由記述式

【肢体不自由】

・タイピングが遅いためメモを取りづらい。

・首から下の麻痺があるため、電話やビデオをしながらメモを取ることが大変なのと、

長時間の会議となると身体への負担が大きい。

・大きな声が出しづらいため、テレビ会議では音声が相手に届きづらい。

【視覚障害】

・会議に使用するソフトが画面読み上げに対応しておらず、会議に出席するまでのパソコン操作が困難である。
・画像など「見る」ことができないのは通常会議と同じ。声だけの参加となるのだが、やはり多少聞きづらいところがあるのは事実。

・自分自身のパソコンでの利用をしたことがないため在宅勤務の指示が出たときにスカイプなどでの音声会議がうまく利用できるか心配である。

【聴覚障害】

・普段の会議では音声認識アプリを利用している。音声を文字化する形で情報保障を受けているが、遠隔会議システムと音声認識アプリの組み合わせがうまくいっておらず、困難を感じている。

・遠隔では何を言っているかわからない。

・音が悪くて聞こえない。画像が荒くて、口元が見えない。

・自分は対応できているが、環境によっては画像と音にタイムラグができ、余計にわかりにくくなる人もいると思う。

・ビデオ通話の方が声が聞きとれないし、音声のみの会議には参加出来ないのではと思う。

【発達障害】

・部屋が散らかっているため遠隔会議をすることが少し恥ずかしい。

## 「在宅勤務・時差出勤・遠隔会議」に関してご意見をお聞かせください。　※自由記述式

【肢体不自由】

・コロナのような感染症防止のためだけではなく、合理的配慮の1つとしても広まってほしい。

・今回のコロナに限らずこのまま在宅勤務制度が広がり障害者に限らず健常者も普通に利用できるようになればと思う。

・在宅勤務、時差出勤を、大企業や正規職員だけではなく、もっと普及させてほしい。

・社内で私一人だけ、特別に在宅勤務を認められ、実質仕事から干されていてとてもイヤ。なぜならば私の部署は仕事の特性上在宅勤務は不可能な仕事だから。

【視覚障害】

・このような制度が普及すれば、よりスキルのある障害者が社会参加が可能になると考える。

・障害によって在宅勤務がしづらいというのは改善していく必要があるとは思うが、セキュリティ面や、ハード面など、クリアするのは正直難しいと思う。

【聴覚障害】

・私は個人で仕事をしているが、もし企業に勤務していた場合、テレワークが一番不安。（電話ができないため、ちょっとした連絡などのやりとりがスムーズにできるのか、テレビ会議にはどうやって参加するのか、など）

・誰もが平等に利用できる制度にしてほしい。

【発達障害】

・制度としてはとても良いと思うが、個人にはあまり合っていないなと感じているため、自由に選択出来るとなお良いのかなあと思う。

【重複障害】

・通勤でのストレスは大きいため、それが軽減されるなら喜んでしてほしい。

【その他】

・利用したいと思っても障害者の場合、契約社員で雇用されることが多く、在宅勤務や時差通勤の制度を利用する職域になかなか就けない。